①教授の顔写真



②教授からのメッセージ

地域社会論研究室を主宰している笠井です。地域社会論は社会学の一分野です。地域社会と聞いて、自分が生まれ育った地方や、ニュースや作品で知る田舎暮らしの良し悪しなどをイメージする人もいるかもしれません。しかし、地域社会は必ずしもruralやcountrysideを意味するものではなく、都市や郊外も含まれます。人の生活が関わっている何らかの地域性全般を対象とする分野です。そのため、民俗行事や祭礼といった伝統に関わるもののほか、住民自治や地域福祉、さらには公共空間の利用なども射程範囲です。

　担当教員は以上のうち、特に滋賀県で民俗（伊勢講、左義長）、住民自治（自治会、ニュータウン）、地域福祉（更正保護、児童虐待、子どもの貧困）などを対象とした研究に取り組んでいます。もともとは生活史法という、人生史の聞き取りを中心として社会史に迫る方法を取っていました。最近はそれに加え、GIS（地理情報システム）や計量テキスト分析にも関心をもっています。また、古文書を含む民俗資料の読解や、地域住民とのコミュニティアーカイブ制作などにも幅を広げようと挑戦しています。他の研究室と比べ担当教員の研究歴が浅いですが、その分、ゼミ生と教員がそれぞれに自分がいま一番取り組みたいことに取り組み、互いに影響を与え合う半学半教が体験しやすい研究室かもしれません。

　本研究室を志望する学生は独立自尊の精神を持ち――自身の強い興味関心と責任感、そして他者への尊敬を抱えながら――、人と接する何らかの社会調査に基づく研究を行って下さい。コロナ禍でフィールドワークがきわめて困難な中、新しい社会調査法を考えるのもまた私たちの役割です。地域社会を机上の対象として捉えるだけでなく、その社会に自分も何らかの形で巻き込まれてしまうような――あるいは社会を巻き込んでいけるような――、実学志向の学生を待っています。

　教員や先輩は少しだけ皆さんより早く地域社会論の勉強を始めたに過ぎないので、入ゼミ後すぐに、学問上は対等の関係で議論に加わってください。私も皆さんから多くのことを学ぶのを楽しみにしています。

③研究対象

民俗行事やまちづくり、地域福祉など地域社会に関するテーマが中心です。

卒論（個人研究）はゼミ生によって全然違うので、地域社会に関することであればなんでも研究出来ます！

④ゼミ生の構成

4年生（1期生）　14学生　3年生（2期生）　10学生

出来たばかりの新しいゼミです！3期生は15名ほど募集予定です。

⑤他学部生の受け入れ可否

現在文学部の人も、法律学科の人も在籍しているので、他学部・他学科生大歓迎です！

⑥留学から帰ってくる学部生の扱い

現在ゼミで留学している人はいませんが、先生に柔軟に対応していただけます！

個人研究については先生が個別で相談に乗ってくださるので、心配はないと思います。

⑦ゼミ生からのコメント

今年度は３.4年生が混ざった少人数グループで輪読の発表を行ったので、他のゼミよりも先輩と交流できるかなと思います。先生は学生の主体性を大切にしていらっしゃるので、どんどん積極的に学びたい方はもちろん、主体性を身につけたい方にもぜひ検討していただきたいです。

⑧ゼミの進め方

今年度は文献を読んでみんなでディスカッションを行いました。ゼミの内容は学生の要望を聞いてくださるので、主体的な発言や行動が重視されています。

また、学生全員が個人研究に取り組み卒論を作成するので、その進度の発表が毎授業行われます。研究を進めるために先生や同期、先輩と話し合いを重ねるので、学問的にも精神的にも大きな成長が出来ると思います！

⑨使用文献

今年度の授業で使った文献はゼミ生の希望で決まりました。このようにゼミに対する要望は文献に限らず通していただけるので、柔軟なゼミだと思います！

今年度の使用文献

「養子縁組の社会学　―＜日本人＞にとって＜血縁＞とはなにか」　野辺陽子　新曜社

「学歴社会のローカルトラック　地方からの大学進学」　吉川徹　大阪大学出版会

→このように社会学を広範囲に学んでいます。

⑩ホームページアドレス

HP　<http://katatsumu.jp/>

⑪連絡先

HP　<http://katatsumu.jp/>

Twitter　 @kasaiseminar

Instagram　@kasaiseminar

当ゼミに関する疑問などがあれば、ぜひこちらにお問い合わせください！

※オープンゼミは、11/17と12/1に開催を予定しております！オンラインとオフラインの併用で行う予定なので、ぜひ検討してみてください。

新しい情報や変更等は各SNS・HPに掲載しますので、チェックしてください！